The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	センターだより　大阪大学大型計算機センターニュース　第50号（Vol.13　No.2）
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1983, 50, p. 2-14
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65572
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

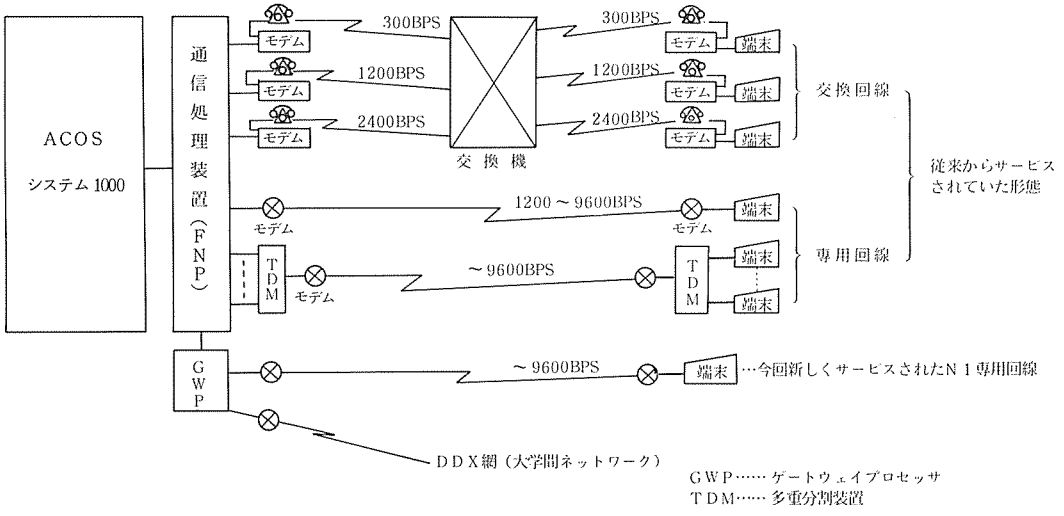
Ｎ１専用回線のサービスについて

本センターでは、専用回線の端末を接続する時、伝送制御手順としてレベル０（無手順）、レベル２Ａ、レベル２Ｂのいづれかを用いてサービスを行っていましたが、今回新たにＮ１制御手順による専用回線の接続ができるようになりましたのでお知らせいたします。

このＮ１制御手順は、大学間ネットワークに利用されている伝送制御手順と同様に本センターのＴＳＳ処理、リモートバッチ処理および他センター（大学間ネットワーク）のサービスが受けられます。Ｎ１専用回線で端末を設置する場合は必らず事前にセンターに連絡するようにお願いします。

なお、端末設置に関することについては業務掛（内線2810）へ問合せください。

オンラインサービスの端末接続形態図



（業務掛）

昭和58年度後期利用者講習会計画

月日	時間	タイトル	内容	受講対象
10月26日(水)	10：40〜16：30	FORTRAN77について	○FORTRAN の知識のある人を対象に ACOS FORTRAN 77 の文法とプログラミング技法について述べる。	FORTRAN 文法習得者
10月27日(木)	10：40〜14：00	FORTRAN 77 (V) の使用法	○FORTRAN 77 (V)ジョブを実行するうえでの a コンパイラーオプションの使用法 b 入出力技法 c エラーの原因と対策 について説明を行う	〃
11月9日(水)	10：40〜16：00	第3回TSSとファイルの利用方法について（講義）	○FORTRAN の知識のある人を対象にTSSのコマンドとファイルの利用方法について説明する	FORTRAN 文法習得者で、初めてTSSを利用する者
11月10日(木)	10：40〜16：30	第3回TSSとファイルの利用方法について（実習）	○TSS端末の操作方法とコマンドを一人90分づつ実習を行う	11月9日の講義を受講した者
11月11日(金)	10：40〜16：30	〃	〃	〃
未定	未定	PROLOGについて（SHAPE UP）		

ページプリンタのサービスについて （再掲載）

4月2日より、日本語の出力ができるレーザービーム方式のページプリンタのサービスを開始いたします。ページプリンタは当分の間クローズ処理といたしますので、ページプリンタに出力されたリストは返却棚へ返却いたします。（「MAIL」の指定を行って出力されたリストは 連絡所へ郵送する）

なお、ページプリンタへの出力は次のような方法で行うことができます。

(1) バッチジョブ

バッチジョブでリスト（出力結果）をページプリンタへ出力する時は、「$JOB」カードの第6オペランドフィールドで「JPR」と「$JOBDEF」カードの指定を行う。

（センターの返却棚へ出す時）

```
$        JOB        課題番号$パスワード，ジョブクラス，，，，JPR
$        JOBDEF     FORMSET=NORMAL
            ≀
$        ENDJOB
```

（連絡所へ郵送する時）

```
$        JOB        課題番号$パスワード，ジョブクラス，MAIL，，JPR
$        JOBDEF     FORMSET=NORMAL
            ≀
$        ENDJOB
```

(2) TSSコマンド

TSSのコマンドを利用してファイルの内容をページプリンタへ出力する方法

```
*$FPRIJ ファイル名 ……… ①
 FORMSET ? (CR) ……… ②
 SEND BY MAIL (YES OR NO) ? N …… ③
 JOB CLASS (E, A, B, C) ? E …… ④
      SNUMB = C514T
```

① 従来の「$FPRINT」コマンドの後に「J」を指定すると、ファイルの内容はページプリンタへ出力される。

② (CR)を入力する。

③ 出力結果を連絡所送りにする時は 「Y」
〃 〃 しない時は 「N」 を入力する。

（吹田地区の課題番号で使用した時は、このメッセージの問合せはありません）

④ ジョブクラスを入力する。

（業務掛）

ＴＳＳにおけるＦＯＲＴＲＡＮ７７およびＦＯＲＴＲＡＮについて（再掲載）

(1) 制限事項

58年４月１日現在、以下の制限事項がありますが、いずれも次のＯＳのバージョンアップと同じ時期（58年８月頃）に解除される予定です。

① 組込みサブルーチン ＦＰＡＲＡＭ の引用が無効となることがある。

一つのプログラム内において、組込みサブルーチン ＦＰＡＲＡＭ を引用して端末装置に対して入力促進記号を変更するとき、一度端末装置から入力を実行した後はこれ以後の ＦＰＡＲＡＭ の引用は無視され、最初に適用された入力促進記号が最後まで有効となる。また１行当りの印字数を変更するために ＦＰＡＲＡＭ を引用するときは、一度端末装置に出力を実行した後は上記と同様となる。

対象サブシステム名 ： ＦＲＴ 77, ＦＯＲＴＶ.

例 READ（5, ＊）Ｉ ← ⓐ 端末にはⓐ, ⓑともにＩ＊？が印字される。

CALL ＦＰＡＲＡＭ （3, ▼？？？？▼）正しくはⓐではＩ＊？, ⓑでは？？？？である。

READ（5, ＊）Ｊ ← ⓑ

② ＴＥＲＭＩＮＡＬ オプションを使用できない。

ＦＲＴ 77 サブシステム下で、ＲＵＮ コマンドに ＴＥＲＭＩＮＡＬ オプションを指定しても無視され、これを指定しなかった場合とまったく同じ動作となる。

(2) ＲＵＮ コマンドの追加

ＦＲＴ77 サブシステム下において、インライン展開のオプションの指定が２月４日より下記の形も可能になりました。なお、従来の ＮＩＮＬＩＮＥ および ＩＮＬＩＮＥ も引き続き使用できます。

ＩＮＬＩＮＥ ＝ 0, ＩＮＬＩＮＥ ＝ 1, ＩＮＬＩＮＥ ＝ 2

(3) そ の 他

ＦＲＴ77 サブシステム下における ＭＡＴＨＬＩＢ－６ およびセンターライブラリー を使用するときの ＲＵＮ コマンドのオプションは下記のとおりです。

- ＭＡＴＨＬＩＢ－６を使用　　ＲＵＮ ：Ｌ ＝ ＬＩＢ／ＭＬＩＢ7
- センターライブラリーを使用　　ＲＵＮ ：Ｌ ＝ ＬＩＢ／ＣＬＩＢ7
- ＭＡＴＨＬＩＢ－６とセンターライブラリーを使用

ＲＵＮ ：Ｌ ＝ ＬＩＢ／ＭＬＩＢ7 Ｌ ＝ ＬＩＢ／ＣＬＩＢ7

（注意）リードパーミッションの指定は不要です。指定するとエラーとなります。

（誤例） ＲＵＮ ： Ｌ=ＬＩＢ/ＭＬＩＢ7, Ｒ 不要

（研究開発部）

FORTRAN77 (V) 用のMATHLIB−6について（再掲載）

4月25日（月）から、下記の追加および変更を行いますので注意して下さい。これらの追加、変更を行う前の状態などについては、速報No.95（1982年8月発行）を参照して下さい。

(1) サブルーチンの追加

下記の15個のサブルーチンが使用可能となります。

SCDQR, SCGVNS, SKROMB, SLAUTG, S0PLT1, S0PLT2, S3INR1, S3NOR1, WLAUTG, WLRK45, W0PLT1, W0PLT2, W3INR1, W3NOR1, VCEIG1

これらの追加により、FORTRAN のRモードから使用できるものは、すべて使用できることになります。

(2) コンパイルオプションの変更

MATHLIB−6 のオブジェクトプログラムを作成する時のコンパイルオプションを下記に変更します。なお、使用方法については変更はありません。

V, OPT＝2, INLINE＝2, NROUND, IAP, COMPAT, 他は既定値.

（研究開発部）

TSSコマンドのNTSSサブシステムについて（再掲載）

現在、ネットワークで他大学のTSSを利用する場合は、“$$$CON, NETWK” でコネクトしていましたが、5月2日より、TSSとコネクトした後、NTSSコマンドを入力して他大学を利用することが出来るようになります。これは暫定リリース版で正式版は6月中旬になり、“NETWK” とコネクトしていた時に利用出来たファイル転送コマンドは使用できません。利用出来るものとして CLOSE・DONE・BYEとブレークです。

また、端末の属性は、TSS とコネクトした時の属性が標準となりますが、グラフィック・モードは ASC と扱われます。

6月中旬からは、“$$$CON, NETWK”が使用出来なくなり、ファイル転送 etc のコマンドが利用可能になります。

① 機　能

- 相手サーバ HOST との会話開始処理
- 〃　会話終了処理
- 相手サーバ HOST との会話処理
- 利用者からの要求によるブレーク処理
- NVT 識別文字の変更

・ ファイル転送機能（現在使用できません）

② 使 用 例（阪大から東大を使用する場合）

```
SYSTEM ?NTSS <------------------------ NTSS コマンドの入力。
** NVT SERVICE START **
HOST ?TOKYO <------------------------- HOST 名で東京を指定。
  WAIT A MOMENT
** CONNECTED TO TOKYO **
LOGON <------------------------------- 東大に対し、LOGON コマンド投入。
JET12012A ENTER USERID-
課題番号
JET12026A ENTER PASSWORD FOR カダイバンゴウ-
パスワード
JGP300I カダイバンゴウ, LAST ACCESSED DATE=83-04-21 TIME=10・40・00
JET10065I TSS カダイバンゴウ STARTED TIME=11:18:13 DATE=83-04-21
 ***** 04.28(THU) --> 05.05(THU) WA ZEN 'SERVICE' YASUMI DESU. ***
      '>>NEWS' O GORAN KUDASAI.            UPDATE 38-04-13
  WELCOME TO M280H.
  YOUR LAST ACCOUNT WAS \500000 (\497748)
>> NEWS
   * * * * * 83-04-13 --> 83-04-28  (S)  * * * * *
 + 04.28 (THU) WA GETSUMATSU SHORI BI NO TAME SUBETE NO
   'SERVICE' O KYUUSHI SHIMASU. MATA SHUTSURYOKU MACHI ' JOB'
   NO KYOOSEI SHUTSURYOKU O OKONAI MASU.

   * * * * * 83-04-13 --> 83-04-28  (S) * * * * *
 + 04.29 (FRI) YORI 05.05 (THU) MADE WA 'CENTRE' NAI SAGYOO NO
   TAME SUBETE NO 'SERVICE' O KYUUSHI SHI HEIKAN ITASHI MASU.
   KUWASHIKUWA " CENTRE NEWS VOL. 15 No. 4" O GORAN KUDASAI.

   * * * * * 83-04- 5 --> 83-06-29  (S)  * * * * *
 + *** 'FORTRAN' NO 'COMPILE OPTION' NO ICHIJI SEIGEN ***
   'SUBCHK' WA 'IAP' SHIYOOJI NIWA MUKOO TO NARIMASU.
   'CENTRE' DEWA 'IAP' GA HYOOJUN TO NATTE IRU TAME.
   'NOIAP' O SHITEI SHINAI TO 'SUBCHK' WA YUUKOO TO NARI MASEN.
```

```
  * * * * * 83-02-15 -->83-12-31 (S) * * * * *
+ TANKI 'FILE' NO HOZON KIKAN WA RIYOO KAISHI BI
  O FUKUMETE 4 NICHI KAN DESU.
>>LOGOFF
JET 11061I USER COMMAND PROFILE BEING STORED
JSN=L10942, CT= 00·52, ET=00:04:59, MEMORY=92KB, OUT=0P,
FILE=(0KB:\0, 2565KB:\1)
ACCT=(\38, \2313, \497687), NETWORK=(30, \15), HOST=TOKYO
JET10080I    TSS SESSION ENDED TIME=11:26:22 DATE=83-04-21+
** DISCONNECTED FROM TOKYO **
HOST ? $DONE <------------------------ NVTコマンド$DONE入力
  WAIT A MOMENT
** DISCONNECTED FROM TOKYO **
** NVT SERVICE END **
SYSTEM ? BYE <------------------- 阪大のシステムレベルに戻り、BYEを入力。
** USED RESOURCE…… CPU=1SEC CON=19.9MIN LINE=PRIVATE
T-ID=$8
** COST: \17
$ N1041 11:36:49 DIS-CP
```

③ 注意事項

a. CRUN サブシステムを利用して NTSS サブシステムの実行を行うことは、できない。これは、CRUN サブシステムの実行終了時、TSS によって自動的に COUT サブシステムが実行される。COUT サブシステムは、NTSS では判断できないために、CRUN 終了時には、必ず、ゲートウェイプロセッサが切断されてしまう。

b. NTSS サブシステムがブレークを受け付けるのは、端末にメッセージを入力または出力している時だけである。その他の時のブレークは全て無視される。また、NTSS サブシステムでは、ブレークによる実行の保留等の制御は行う事が出来ない。

④ 現在の NTSS サブシステムで扱える NVT コマンドの種類

入力コマンド	処　　理	備　　考
$CLOSE $CLS	会話中のホストとの NVT りング解放処理を行う。	HOST? の時は無効
$DONE	NTSS サブシステムを終了させる。 （相手ホストと会話中であれば、$CLOSE 処理も自動的にされる。	
$BYE	TSS を終了させる。（相手ホストとの会話中であれば、$CLOSE 処理も自動的にされる。）	
$CHANGE $CHG $ACH	NVT 識別文字を変更する。 （パラメータ必要）	$ CHANGE X
ブレークキー $$$BRK $BRK	NTSS の状態によって異るが、相手ホストへＩＰコマンドを送信する。	

ネットワーク用コマンドの機能追加について　（再掲載）

Ｉ．ＴＳＳコマンドのＮＴＳＳサブシステムの正式運用について

7月1日（金）より、速報（No. 102 の 5）においてお知らせした NTSS サブシステムが正式サービスになりました。

なお、これによって$$$CON, NETWK という方法で、今まで接続していましたが、この方法は、使用出来なくなります。

(1) NTSS サブシステムに追加された NVT コマンドについて

コマンド名	機　　能	備　　考
$MSGID {ON / OFF}	NTSS サブシステムからのメッセージのメッセージＩＤの付加／削除を指定する。	
$SEND	ファイルの内容（阪大システム内）を相手サーバホストに転送する。	ホストと接続中のみ使用可能
$CPYON	システムと会話している状況をファイルに保存する。	
$CPYOFF	$CPYON を取消す。	
$TSS	ローカルＴＳＳ（阪大システム）のコマンドを利用する。	
$NMES {ON / OFF}	センターから送信するメッセージの出力を制御する。	

（コマンドの説明）

① $SEND コマンド

このコマンドは、自ホストに存在するファイルの内容を相手サーバホストに転送する為のコマンドである。この時、相手ホストに送られるメッセージは、ファイルの1レコードごとに送信される。（244バイトを超えた場合は、それ以下のみが送信される）

コマンド形式

$SEND filedescripter (,LIST)

LIST パラメータ指定時は、相手ホストへ転送した内容が端末にも出力される。

なお、$SEND コマンドを処理中の時の BREAK では、以下の動作をする。

LIST オプション有 …… LIST オプションを無効とする。

LIST オプション無 …… $SEND 処理を終了する。

② $CPYON, $CPYOFF コマンド

$CPYON コマンドは、相手ホストとの会話の内容を自ホストのファイルに記録するコマンドである。

$CPYOFF コマンドは、$CPYON コマンドを取消す為のコマンドである。

コマンド形式

$CPYON filedescriptor ({ , BOTH / , SEND / , RECEIVE })

- BOTH オプション指定時は、相手ホストからのメッセージおよび、利用者の入力したメッセージの両方が記録される。
- SEND オプション指定時は、相手ホストからのメッセージのみ記録する。
- RECEIVE オプション指定時は、利用者の入力したメッセージのみ記録される。

③ ローカル TSS の利用

NTSS サブシステムでは、相手ホストの TSS を利用中に、自ホストのローカルTSSを利用することができる。

コマンド形式

$TSS コマンド名 パラメータ

④ ネットワーク・メッセージ

$NMES コマンドは、センターから NTSS サブシステム利用者へ送信するメッセージを端末に出力（$ NMES ON）または、出力を抑制（$ NMES OFF）する。

コマンド形式

$NMES {ON / OFF}

⑥ NTSS サブシステムからのメッセージのＩＤの付加／削除

NTSS サブシステムからのメッセージＩＤの付加／削除を行う。

コマンド形式

$MSGID {ON / OFF}

⑦ その他

端末の属性変更（JIS, ASC etc）に関しては、最初に端末からTSS にコネクトしたモードに設定されています。ダイナミックには変更不可能です。

なお、漢字データーの処理は属性変更の指定がＡＳＣで可能です。しかしグラフィックデーターは扱うことはできません。この漢字データーは阪大と東北大間のみで使用出来ます。東大・京大はデータ化けが発生する。

Ⅱ. ネットワーク用“＄ＲＪＥ２”の制御カードのオプション追加について

$RJE2 カードが、次のように機能拡張されます。これも７月１日（金）より正式運用になりました。

形　式

カラム1	8	16
$	RJE2	ホスト名, {DUMP / NDUMP}, オプション

オプション

・{LP132 / LP144}

ラインプリンタ形式のジョブ結果を受信した時に、１４４桁のラインプリンタ用 SYSOUT を作成することができる。

・{OVERTURN / OVERCUT}

ラインプリンタ形式のジョブ結果を受信した時に、ＬＰ×××で指定した文字数以上のデータを受信した時の指示を指定します。

OVERTURN …… あふれた部分は次の行に折返して出力される。

OVERCUT …… あふれた部分は削除して出力される。

{PAGEFEED / NOPAGEFEED}

RJE2 実行レポートをシステム・レポートに続いて出力させるか、改頁して出力させるか指示します。

PAGEFEEDの時、改頁して出力させ、さらに、各頁ごとに見出し用のヘッダを出力します。

Ⅲ. NRJEサブシステムについて

NRJE サブシステムで出力するメッセージにメッセージIDが付加されます。

メッセージIDは、< NRJEnnnx > という形をとります。

(業務掛)

SPSSのバージョン・アップについて（再掲載）

6月1日（水）より、SPSS を第8版から第9版へバージョン・アップいたします。

この第9版には次の機能が追加されています。

MANOVA：一般線形モデル

BOX － JENKINS：ボックス　ジェンキンス法

NEW REGRESSION：重回帰分析（新版）

但し、ACOS 版では、SCSS ファイル、OSIRIS ファイルおよびGRAPHICS オプションを取扱う機能は提供されていません。

新機能に関する詳細は、「SPSS UPDATE 7－9」Mc Graw－Hill(図書資料室に備えてあります）を参照してください。なお、第9版としての障害・制限事項がSPSS社より通知されています。ファイル“SPSS／ERRMSG”に内容を登録してあります。

TSSではLISTコマンドで端末に、バッチ処理では下記のジョブ制御文でプリンタに出力できます。

```
*LIST   SPSS/ERRMSG, R
1       8           16
$       CPROC       LIST/SPSS,, ERRMSG
```

（システム管理掛）

言語Cのサービス開始について（再掲載）

58年7月1日から言語Cのサービスを開始します。かねてより利用者の方から希望のありました言語Cですが、契約手続に時間を要したために遅れていたものです。

Cは、バッチ処理またはTSS処理のいずれのモードでも使用できます。以下に、ソースプログラムをコンパイルし実行する基本的な使用法のみを述べます。豊富なコンパイルオプションおよびコマンドオプションが用意されていますので、後述のマニュアルを一読して下さい。

I．使用方法

○ バッチ処理のジョブ制御言語

```
$ JOB
$ BREAK                                  ……①
$ LOWLOAD
$ CC                                     ……②
$ PRMFL  S*, R, S, 課題番号／ファイル名  ……③
$ LIBRARY  CC, BF                        ……④
$ EXECUTE
$ PRMFL   CC, R, R, LIB／C／LIB1 }
$ PRMFL   BF, R, R, LIB／C／LIB2 }  …⑤
$ ENDJOB
```

（説明）

① ローダに対するオプションを初期化する。

② 言語Cのコンパイラを起動する。

③ パーマネントファイル中のソースプログラムを指定する。

④，⑤ 言語Cの関数の登録されているファイルを指定する。

ソースプログラムがカードデックの場合は、③の代りにカードデックを挿入する。

○ TSS処理

TSS処理では、CCコマンドおよびGOコマンドの2つのコマンドの組合せにより実行する。ソースプログラムは、テキストエディタ（EDIT）サブシステム下で作成すればよい。

```
SYSTEM? CC      ファイル名  ……  ①
SYSTEM? GO      ……  ②
```

（説明）

① パーマネントファイル中のソースプログラムから実行形式のロードモジュール・H（テンポラリファイル）を作成する。ただし実行には至らない。

② ロードモジュール・Hから実行する。

Ⅱ. 使用例

TSS 処理でパスカルの三角形を書くプログラムを実行する。ファイルを作成するときに大文字を使用しているのでオプション「－A」の指定が必要となる。

```
SYSTEM? CC LIBSOURCE/C/EXAM1, R -A
SYSTEM? GO
```

（実行結果）

```
                    1
                  1   1
                1   2   1
              1   3   3   1
            1   4   6   4   1
          1   5  10  10   5   1
        1   6  15  20  15   6   1
      1   7  21  35  35  21   7   1
    1   8  28  56  70  56  28   8   1
  1   9  36  84 126 126  84  36   9   1
```

なお、マニュアルの付録Ｆの例題のソースプログラムおよびそのバッチ処理の ＪＣＬ は下表のファイル（大文字を使用）に登録しているので参考のこと。ただし、必ずリードパーミッションでアクセスすること。

プログラム名	ソースプログラム	ＪＣＬ
例題 (1)	LIBSOURCE／C／EXAM1	LIBSOURCE／C／JCL1
例題 (2)	LIBSOURCE／C／EXAM2	LIBSOURCE／C／JCL2

参考文献　FGP01　C説明書，日本電気（1982年初版）

（研究開発部・システム管理掛）

FORTRAN77（V）の仕様変更について（再掲載）

58年6月1日より、デバッグのための測定機能の仕様が下記のように変更になりました。

測定機能は、次の方法により使用できる。

（旧）　○　コンパイル時にオプション FTIMER を指定するか、または、プログラム中で CALL FTIMER 文を引用する。

（新）　○　コンパイル時にオプション FTIMER を指定する。